

■ 第85回調査研究方法検討会かわら版 ■

去る 2023 年 3 月 25 日（土）、オンライン会議システム Zoom を使用して、第 85 回調査研究方法検討会が開催されました。

検討会の報告要旨は、各演者の方へお願いしております。ご発表いただいた研究の概要とともに、検討会で議論された内容も含めご報告いたします。

「WSのトレンドを探る」

尾崎 貴視

毎年、年次集会では多くのWSが開催されている。WS委員として、どのようなWSが企画されてきたのか、どのようなWSに参加者が多かったのか、どのようなWSの評価が高かったのか等は、単に興味があるだけでなく、把握しておくだけの価値はあると考えた。その知識があれば、エントリーされる演題を吟味し、アドバイスを送り、ジャッジを行う上で、とても大きな力となる。

まずは、どのようなWSが高く評価されたかにつき、入手可能なデータを用いて主成分分析および因子分析を行った。検討会では、その過程で問題となった統計処理や評価方法について相談し、今後のアンケート作成、評価方法を模索するうえで、様々なアドバイスをいただいた。

「12歳～16歳の新型コロナワクチン接種後抗体価の追跡」

鈴木英太郎

新型コロナウイルスワクチンの接種による抗体価の推移は中学生 12～15 才にファイザー製 COVID-19 ワクチンを 5 施設計 63 人に接種して S 抗原をデンカ製 ELISA 法で測定した。有効血清は 57 人であった。1 回、2 回、3 回目接種で前抗体も測定用を含めて 5 回の血清を集め、S 抗体を測定した結果は 1 回目にブースターがかかった 2 回目の抗体価は半年後には 1 回目接種した抗体価まだ下がり減少率は 90%にも達した。3 回目接種のブースター効果で 2 回目接種時より高い抗体価が得られた。国の施策であった 6 ヶ月後の 3 回目接種は妥当と考えられる。当院スタッフ 40 名についてはアボット法で抗体価推移を追っており中学生も含めて 5 回目接種までの結果を追っている。上記と同様の結果を得ている。

「こどもどこスタッフの進路～こどもどこのこれからへ繋ぐ～」

清水翔

「こどもどこスタッフの進路～こどもどこのこれからへ繋ぐ～」と題した調査研究について、目的や対象、および具体的なアンケート項目についてお示しした。その上で、各アンケート項目が目的に見合うものになっているか、あるいは的確な表現であるかなどを中心にご相談させて頂いた。当日は以下の3点についてご意見があり回答した。

①参加者の属性について個人情報を開示したくない方への対応はどのようにするのか。

→こどもどこスタッフ経験者の名簿を作成するという調査研究の目的上、当該項目は必須項目とせざるを得ない。情報開示に同意頂けない場合は調査研究への参加をしない選択もできるように説明する。

②こどもどこへの所属するきっかけは人によって様々であり、もう少し具体的な項目立てがあった方が良いのではないか。

→確かにこどもどこへ興味を持つきっかけから実際にスタッフとして参加するまでの過程は人によって様々であり、ある程度具体的な項目も示した方がより良い調査となる可能性がある。現在のままの項目で広く自由に意見を求めるか、ある程度具体的な項目を盛り込むべきかは再度検討していく。

③小児科を選択しなかった場合について、始めから小児科が眼中になかった人と悩んだ末に選択しなかった場合とでは回答の質が異なるのではないか。

→こどもどこという団体の性質上、ある程度は小児診療に興味がある学生が集まっているという前提で調査を行っている。今後調査を進めていく上でその前提が適切でない場合には再度項目の検討を行う。

『新型コロナに対して小児科医はどのように対応したか』インタビュー研究』

岡本茂

新型コロナの流行は日本の社会に様々な影響を及ぼした。その中で小児科医の臨床行動・生活にも大きな影響を及ぼした。特に、当初の小児の受診の減少やワクチン・乳幼児健診の問題など状況は多岐にわたる。流行が3年以上経過し、ある程度の新型コロナの病態がわかってきたが、2023年5月には5類に移行する。この状況下で小児科医の臨床行動をさぐり言語化することで、新型コロナの流行・流行後も含めた今後の小児科医の行動をさぐりたいと考えている。検討委員会では、2009年新型インフルエンザインタビュー研究の図（論文未発表）を共有した。本研究は質的研究のため質的研究方法検討会でさらなる研究方法について議論をしてゆく予定である。

「鶏卵の単回摂取による食物経口負荷試験の安全性についての多施設共同研究」

真方浩行

食物経口負荷試験（OFC）はアナフィラキシーなど重篤な症状が誘発される可能性があるが、単回摂取による OFC の安全性に関する報告は少ない。食物アレルギー診療ガイドライン 2021 に従って山口県小児科医会に所属する複数の施設でオープン法単回摂取により OFC を実施し安全性について検討する。

本研究計画について、倫理審査の結果も踏まえて再度検討していただいた。研究デザインについては単回摂取による OFC の安全性についての症例集積を目的と考えると観察研究になり、症状が誘発された症例の分析をすることを目的とすればコホート研究になると考えられるとご意見をいただいた。研究デザインについて再度検討し、食物アレルギー診療ガイドライン 2021 における OFC の実施方法との違いを明確にした上で研究計画書を修正しリサーチ委員会の審査を受ける予定。

連絡先：〒820-0040 福岡県飯塚市吉原町 537 いいづかこども診療所 牟田広実
FAX: 0948-80-5632, E-mail: qze05346@nifty.com